

新年度ご挨拶

ケアの中核部分と周辺部分 はあとふるグループが目指すのは

理事長 島田 永和

平成27年度が始まりました。お正月は一年の区切り、以前より情緒がなくなってきたという声も聞きますが、やはり格別の思いで元旦を迎える方も多いのではないのでしょうか。また、学校や事業は4月が一年のスタートです。新入生やフレッシュマンを迎え、お正月とは違った意味の緊張感があります。

今年は、介護報酬改定の年でもあります。ますます加速するかのような少子高齢化の中で安倍政権が一番に掲げるのは経済・財政政策です。しかし、景気回復の実感はありません。この厳しい情勢の中、国の歳出の大きな要素である社会保障は逆風の中での運用となり、今回の改定もマイナス改定です。医療・介護を運営していく私たちは、お金がない中で提供するケアの質を保証するという難しい目標をクリアすることを求められます。

ケアは、その本来の目的となる中核部分と、ケアに伴う周辺の事柄に分類できると思います。検査と診断、それに基づく治療、そして、障害を持っておられる方への日常生活での身体活動のサポートなどがケアの中核部分となります。一方、痛んだ方やご家族への配慮、分かりやすく丁寧な説明、時間をかけた対応などがその周辺でのケアサービスになるでしょう。とはいえ、ケアはこの周辺部分がなければ、価値は低いものとなり、本来はこの両者がバランスを持って提供されるべきものだと思います。

この厳しい状況では、双方へのエネルギーの投入が難しくなります。そこで、中核部分のケアの見直しが必要です。周辺を充実させることはあくまで、中核のケアを高い品質を保ちながらも効率的に提供してこそそのものだと思うからです。社会における一般のサービス業では、質があまり変わらない中での競争となると周辺サービスの質を変えて付加価値を上げ、価格に反映させて、収益の上がる事業として、その継続を確かなものにしていきます。しかし、医療・介護では、報酬は公定価格であり、付加価値に対する見返りは設定されていません。その中で、「中核」をレベルの高いものにすると同時に、ケアに不可欠な周辺部分の充実にも取り組んできました。これが、さらに中核部分の対価が低く設定されるようになると、周辺部分に取り組む余裕がなくなってきます。それでも、事業として存続させるための方策をどこに見出すことができるのでしょうか。

基本となるのは、私たち全員が、ケアの中核に当たるものの質を高め、効率性も追求して、可能な限り周辺部分のケアを守り抜

くという姿勢ではないかと思えます。それにより、結果的に他者が追いつこうとしても追いつくことができない「模倣困難なケア」の確立につながります。そうすれば、ケアの周辺部分へより多くのエネルギーを投入できると思うのです。

毎日のケア提供の現場では、さまざま出来事があります。私たちの体制の整備が不足していることやスタッフの技能が未熟であるため、顧客からクレームという形でご批判をいただくことも稀ではありません。その一方で、ご自身の都合だけを優先させて、頭からダメだと決めつけたご意見を頂戴することもあります。ケアの本質部分について、常に胸を張ってご説明できる内容を維持していると自負するなら、当方が精一杯の努力で行っているレベルを超えた中核部分以外の分野での要求には、はっきりと「現状ではご期待に添うことはできない」とお伝えすべきだと思っています。それが、現実を理解していただくために、必要だと考えるからです。

典型的な例は外来診療における「待ち時間」の問題です。みんなが忙しい時代です。待つことは時間の浪費となり、誰でも避けたいと思います。しかし、限られた対応医師に対して、一定以上の顧客が来院し、しかも、丁寧な診療と十分な説明を心がけるとすれば、一人あたりの時間は長くなり、結果的には待ち時間につながります。外来診療の担当医が、手術を予定している場合など、時間が押して、食事を取る時間も手術に向かわねばならないという現実もあります。手術患者に待ち時間を発生させるのは避けなければならないからです。この状況で、待ち時間を短縮させるためには、ここで掲げた何かを犠牲にしなければなりません。私たちの内部の議論での結論は、「何も犠牲にできない」ということでした。したがって、診療の質を確保するには待ち時間を容認して欲しいという説明をさせていただいています。

財政面での制約のある中で、私たちが守らねばならない専門職としての責任は、あくまでケアの中核部分にあります。しかし、ケアは、その周辺部分があってこそ成り立つということも事実です。その両者をどのようにバランスを取り、継続できるか、常に検討をしながら、歩んでいきたいと考えています。

私たちのケアの方向性など、ご理解いただき、ご協力をいただければと思います。今年度も、どうぞよろしく願いいたします。



外来診療担当医変更のお知らせ

平成27年4月6日より、島田病院の整形外科・ペインクリニック整形外科の外来診察担当医が変更となりました。島田病院ホームページや島田病院に設置されている「外来診療のご案内」にて、外来担当医一覧を掲載しておりますので、詳細につきましては、ご確認ください。

担当医が変更となる場合もございますので、あらかじめご了承ください。



ヴィゴラス教室のご案内

【マンツーマン】トレーニング講座

「野球選手のための投球フォームづくり教室」

～正しい体の使い方での障害予防&パフォーマンス向上を目指す～

投球は、下半身から体幹(体の中心部)、上半身の順で効率よく力を伝達する運動連鎖が重要で、誤った身体の使い方をすると肩・肘の障害やパフォーマンス低下を招く可能性もあります。

そこで、今回は運動連鎖で重要となる下半身、特に股関節の使い方を指導し、障害予防・パフォーマンス向上のための投球フォーム改善を目指します。

この機会にぜひご参加ください!!

日 程 **ご希望の日時をお申し出下さい**

内 容 **マンツーマン指導【90分】**

①**バランス能力・体重移動・股関節の動作・投球フォームの評価**

②**①に基づいた個別の投球フォーム・トレーニング指導**

対 象 者 **小学3年生～中学3年生ぐらいまでの方**

費 用 **5,400円(税込)**

持 ち 物 **動きやすい服装・室内シューズ・グローブ・タオル・飲み物**

予 約 方 法 **①はびきのヴィゴラスにて直接お申し込み ②TELまたはFAXにてお申し込み**



※お問い合わせは島田病院 地下1階
はびきのヴィゴラスまで

TEL/FAX 072-953-1007

E-mail vigorous@heartful-health.or.jp

女性選手に多いスポーツ傷害～膝前十字靭帯損傷【前編】～

ひざぜんじゅうじんたいそんしょう

スポーツ現場のケガで、一般的に膝のケガは非常に多く、特に女性は男性に比べて発生率が2～3倍高いと言われています。その中でも特に女性のスポーツ選手に多いケガの1つに、膝前十字靭帯損傷(ひざぜんじゅうじんたいそんしょう)があります。前編では、女性の特徴を踏まえて、膝前十字靭帯損傷の主な症状や原因(例)についてご紹介します。

膝前十字靭帯損傷とは

〈右膝を内側の斜め後ろからみた図〉

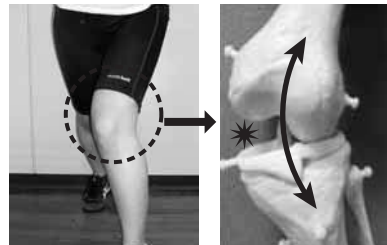


前十字靭帯は膝関節の中にあり、後十字靭帯と一緒に膝を安定させる役割を果たしています。さまざまな動きの中でグラグラしないでスムーズに膝を使うことができるようにしているのです。(左図)

前十字靭帯を損傷しても、普通に歩けますし、正座もできます。でも、方向を変えたり、振り向くように、体重をのせて捻るような動作では、ガクンと膝がずれるような感覚になることも起こります。したがって、スポーツ活動の中でも、ジャンプの着地や急な方向転換など、激しいフットワーク中に膝が安定していなければできない動作に支障が生まれます。膝がガクンとなるようなことを繰り返すと、最初は傷んでいなかった半月板や関節の軟骨まで損傷を受ける危険性があります。

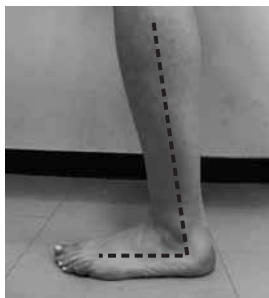
原因

このケガが起こるのは、ジャンプの踏切りや着地、切り返し動作など、膝がさまざまな方向に強く捻って使われる時です。中でも膝が内側に入って受傷する場合が半数以上あると言われてます(右図)。膝が内側へ入りやすくなるのは、①もともとの脚の並び方などの身体の特徴と、②脚の使い方のクセに原因がありますが、これらの特徴が女性で強いため、男性よりもこのケガが多く起こると言われています。



①女性の身体

男性に比べて、女性は全身の関節が柔らかいという特徴があります。そのため、使いやすさはあるのですが、負担が集中したり、その柔らかい関節を支える筋力が不足している場合は、関節を守ることができず、ケガにつながるようになります。



足首が硬い(曲がりにくい)



土踏まずがつぶれている(左右の差)



股関節が内側に捻れている



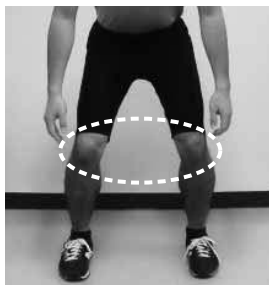
膝が極端に反り返る

②女性の身体(脚)の使い方

女性では、膝を内側に捻るようにして立ち上がったことが習慣になっていることが多く、前十字靭帯損傷以外にもさまざまなスポーツ障害の原因になることがあります。

〈理想〉

着地動作



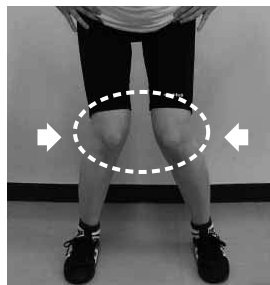
股・膝・足の関節が一直線となり膝が捻れていない

切り返し動作



〈女性の特徴的な使い方〉

着地動作



膝関節が内側に捻れている

切り返し動作



★次回の後編では、前十字靭帯損傷を予防するためのチェック方法や予防トレーニングをご紹介します

はあとふるグループ 使命

私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

はあとふるグループ 理念

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを Warm Heart:心 Cool Head:知識 Beautiful Hands:技術 で支援します

島田病院 理念

人間愛にもとづく確かな知識と技術により、信頼でつながるチームで、安全に、心に届くサービスを提供します

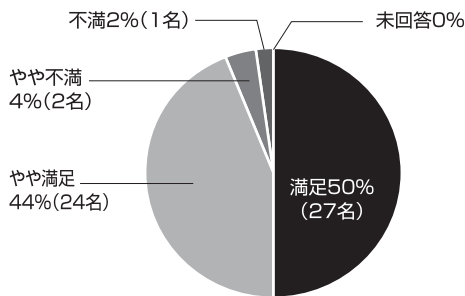


食事アンケート調査結果

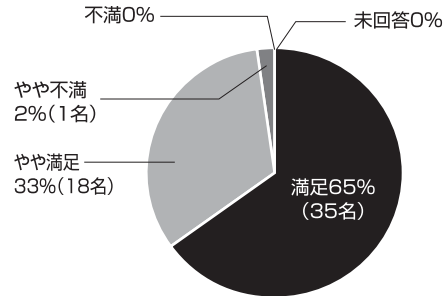
島田病院 栄養管理課では入院患者さまに対して少しでも満足いただける食事サービスを追求しています。このたびアンケートを実施しましたので内容を抜粋して報告いたします。

※実施期間:平成27年1月26日~2月16日 調査対象:期間中の入院患者57名(有効回答数54)

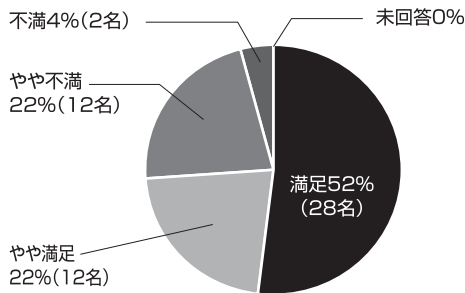
■食事全体の満足度



■温かさについて



■汁物の味付けについて



今回、塩分量の見直しをした結果、前年度より満足度が低下してしまいました。
 同じ味付けの汁物でも糖尿病や高血圧の持病のある患者さまの方が「薄い」と答える方が多かったです。日常的に濃い味付けになっていることがうかがえます。
 「薄味でも美味しい」と言われる汁物のレシピを考えたいと思います!

その他のご意見(一部抜粋)

《お褒めの言葉》

- 1食分の中に色々な食材が使われていて野菜(根菜)も多かったです。またメニューを選べる点も良かったです。
- 最初は薄味でしたが酢の物が食欲を増し大変おいしくいただきました。ありがとうございます!
- たまにあるうどん類がうれしかったです。大勢の人数の料理をされているのに温かい物が多くうれしかったです。ありがとうございました。
- 毎日おいしい食事をいただいてありがとうございます。私も退院したら病院のメニューを思い出して作りたと思います。
- もっと薄味かと思っていたらしっかりとした味付けでとても美味しくて満足しております。ありがとうございました。

《改善が必要な意見》

- 便秘なのでヨーグルトなど朝にあれば良いと思います。
- メニューの内容は満足。味付けでももう少し濃い味が欲しいです。ごはんが硬かったです。
- 食器のシミが気になりました。
- 苦労はわかりますがもう少し薬味などを使って、頑張ってください。
- 朝食のパン食にハムエッグや目玉焼きなどの卵料理がなかったのがさみしかった。
- 毎回食べるのが楽しくなるような(タニタ食堂のような)メニューをお願いします。「えっこれが病院食?!」と言われるような食事を追求していきたいと思っております。入院患者にとっては食べるのが楽しみなんですからね。

とても高い満足度を得ることができて大変嬉しく思っています。そしてたくさんのご意見を頂戴することができました。術後の食べにくさに関する意見もあり、今後もよりよい食事提供の工夫と事前に説明をすることで回避できるように努めていきたいと考えています。改善が必要なご意見に関しては、すぐに改善できるものは早急に行ってまいります。そして「これが病院食?!」と言われるような食事を追求していきたいと思っております。アンケートへのご協力、有り難うございました。

栄養管理課